

東京大学大学院人文社会系研究科
次世代人文社会科学育成プログラムによる海外派遣
帰国報告

最終報告提出日 9月2日

1. 派遣生の基本情報

氏名 齋藤優香

所属 人文社会系研究科欧米系文化研究専攻西洋古典学 博士課程2年

派遣形態 個人派遣

2. 研究課題名

夢と物語 古代後期の文学理論

Dream and Fiction – Literary Theories in Late Antiquity –

3. 派遣先での活動

1. 派遣先の基本情報

国名 イギリス 都市名 オクスフォード

研究機関名 オクスフォード大学

コンタクトした研究者名

ロバート・パーカー教授 (New College)

ピーター・パーソンズ教授 (Christ Church College)

ステファン・ハリソン教授 (Corpus Christi College)

ギュンター・マーティン博士 (University of Bern)

2. 出発日 8月3日 帰国日 8月20日

総日数 17日間

4. 主な研究成果

1. 当初の計画の概要

古典文学における夢と文学の関係を明らかにすることを目的に、その手がかりとして古代後期のプロクローロスとマクロビウスの文学理論に着目する。これらについては、まだ日本では研究者が少なく、日本語で読める文献も非常に限られている。イギリスは新プラトーン主義研究に関して長い伝統があり、今回訪問するオクスフォード大学には、新プラトーン主義哲学、classical tradition, literary theory を研究対象とする教員が多数在籍している。本派遣においては、そのような環境の中で研究活動を行うことにより、上記課題の達成と論文執筆のための足

掛かりを得ることを目的とする。

2. 実際に達成された成果

オクスフォード大学附属図書館（ボードリアンライブラリーおよびサックラーライブラリー）、市内の書店をめぐり、研究資料を入手した。市内の書店には各古典作家のテキストおよび注釈書、新刊のプロクローロスに関する研究書から **classical tradition** の古典的名著まで豊富にそろっていた。古典学書のフロアにはビザンツや中世ラテンのコーナーが設けられており、後者にはマクロビウスやマルティアヌス・カペッラといった古代末期の作家についての研究書が、ルネサンス期のラテン語作家に関する研究書と一緒に陳列されていた。イギリスにおける古典学研究が古代作家の作品の研究にのみとどまらず **classical tradition** という視点を包含していることがうかがえた。ボードリアン・サックラー両ライブラリーにて日本で入手困難だった資料を数点入手した。サックラーライブラリーは古典学専門の図書館であり、日本の大学図書館には少ないイタリア語の文献を多数所蔵していた。

また、講演会や国際シンポジウムでの現地の研究者の方々との交流から、海外での古典学研究の動向についての情報を得た。

3. 今後の研究展望

これまで入手した資料と今回入手した資料を整理し、各資料の重要性を吟味して重要性の高いものから読み進めていく。同時に原典を読み進め、他研究者の論を参考にしつつ、自身の論を形成していく。その過程で他の資料が必要になった場合には、適宜追加の資料収集を行う。古典文学において夢と物語がどのような関係にあるのかについて、古代の文学論を手始めとして、当時の夢理論、夢に対する態度ないし習俗にも目を向けて、多角的な視点から総体的にとらえていきたい。